

発表番号	チーム名	オール京都丹波でつながる和と話と輪
	担当者 【所属名】	山下 美佳 【南丹保健所】
Ⅱ - 1		

タイトル	めざすは同じ！現場のみんながいきいきと動き出す ～京都丹波の患者・要介護者・家族をみんなで支えよう～
------	---

アピール ポイント	人手やお金をかけずに効果的(スマート!)・垣根を越えた顔の見える関係(スムーズ!) 住民の安心、関係者の負担軽減(スマイル!)が揃った3S実践です。
--------------	---

背景	<p>○超高齢社会を迎え、医療・福祉・行政、それぞれが最大限に努力してサービスを提供していますが、「人によって言うことが違う」という住民の声や「違う職種だと話がしにくい」という専門職の声がよく聞かれます。</p> <p>○それぞれの立場で、さまざまな会議が開催されていますが、医療と福祉の壁もあり、互いの状況が理解できず、不完全燃焼で終わることがよくみられました。</p> <p>○これでは、住民は戸惑うばかり。専門職の孤立感や徒労感は住民サービスの低下につながります。活動を人手やお金をかけず効果的な方法(スマート)で専門性を活かしながら「包括的」で「切れ目のない」形に出来ないものか検討しました。</p>
----	--

改善 内容	<p>○平成 22 年度に関係者同士の顔の見える関係づくりを目的に保健所が事務局の「なんたん地域連携研究会」を立ち上げました。</p> <p>○参加者やエリアは違うものの目的が共通する船井医師会が中心の「南丹在宅医療研究会」と連携、調整を重ね、研究会を合同開催し、京都丹波地域全体で顔の見える関係づくりを目指すことにしました。</p> <p>○研究会では、誰もが気楽に語れるように工夫し、さらに情報発信や振り返りとして「研究会だより」の発行、日常の情報交換の場としてメーリングリストを立ち上げ、顔の見える良好な関係づくり(スムーズ)を下支えしました。</p>
----------	---

成果	<p>○医療職と福祉職の関係が、顔の見える関係となり、抱えている事例などを持ちよることで「相談をしやすくなった」という声が聞こえるようになりました。</p> <p>○他職種の考えや活用方法を知る機会となり、連携するエリアや職種が急速に広がり、サービスの幅が広がりました。</p> <p>○多職種によるチーム支援がすすみ、転医や転院もスムーズにいく傾向がみられています。</p> <p>○2つの会議が1つになったことで、世話役の労力は半減し、参加者は大幅に増えるという副次的効果がありました。(スマイル)</p>
----	---

今後の 展開	<p>○情報交換・相談の場を大切に、「顔の見える関係」をより強く広いものに。 【関係者のスムーズとスマイル up】</p> <p>○住民に包括的で切れ目のないサービスの提供。【住民のスマイル up】</p>
-----------	---

住民サービス向上のため
さまざまな会議が...

職種別の会議



ココがポイント★



【3S実践】

スマート：
人手やお金をかけずに
より効果的な方法で
スムーズ：
立場が違って垣根を越えて
顔の見える関係に
スマイル：
住民が安心できて、
関係者の負担が減る方向に



病気別の会議



地域別の会議



これでは住民さんとは
とまどうばかりだね

主治医に聞きたいけど
なかなか聞けなくて...

内輪だけで議論しても
らちがあかないね

まとめた方がうまくくんちゃう？
「包括」というのが
いいらしいよ



みんなで集ってみよう！話してみよう！
顔の見える関係になれば道は広がる！？



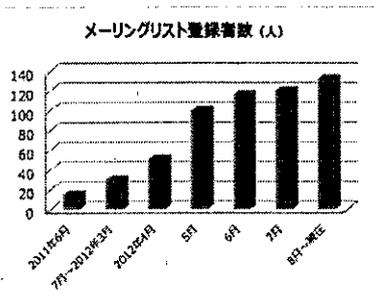
- 【改善策】 ① なんとん地域連携研究会と南丹在宅医療研究会との合同開催
(行政主導) (民間主導)
- ② 誰でも入れるメーリングリストを立ち上げ、情報の発信・共有



参加者急増！
～相談しやすい関係に～
サービスの幅が広がり
スムーズなサービス提供へ



今日も活発な意見交換がされています！！



ケアマネジャー

食べられなくなって胃ろうを
造った人がいるのだけど退院
したら出かける場がないの



うちでは胃ろうがあっても対応できます

○△通所介護
事業所

【成果】 介護される人と家族の安心感up！ 関係者の負担軽減！！ Wでスマイル